

2.4 アメリカザリガニの駆除の重要性と課題

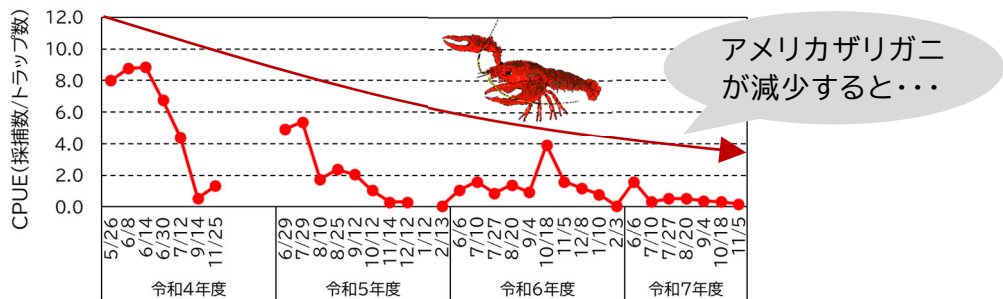
Point

- アメリカザリガニを高密度な状態に放置すると、将来的な可能性も含めて農業被害を更に悪化させるリスクとなる。
- 駆除により低密度状態を維持することが農業被害の発生を防ぐために重要。

2.4.1 アメリカザリガニの駆除の重要性

アメリカザリガニは、繁殖力が非常に高く、水中だけでなく陸上でも広範囲に移動する能力があります。また、水田に生息している場合、非かんがい期においても多少の湿り気がある泥の中であれば生存可能なため、一度定着してしまえば、完全に根絶することは難しいと言われています。本手引で紹介してきた農業被害の実態を踏まえると、アメリカザリガニを高密度な状態に放置することは農業被害を更に悪化させるリスクとなるため、駆除を行うことが重要です。

また、アメリカザリガニの駆除は、地域の生態系の回復や保全にもつながります。図2-23のように、アメリカザリガニが繁殖していた場所において、継続的な駆除を実施した結果、根絶には至っていないものの、低密度状態を維持できたことで、一時はいなくなった水生生物（水生昆虫類、両生類）が再び戻ってきた事例が農林水産省の実証調査から報告されています。



水生生物が徐々に回復します！

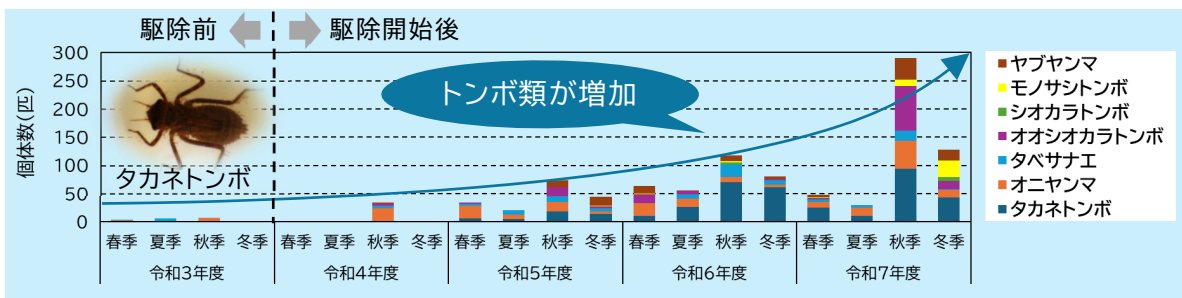


図 2-23 アメリカザリガニの駆除により生物が回復した事例(山口県山口市)

注)岡山大学未発表データから作成(令和8(2026)年3月現在)

2.4.2 駆除を進める際の問題点

アメリカザリガニの駆除活動は、日本各地で実施されていますが、十分な成果を得るためにはいくつかの問題点があります。

(1) 水管理上の制約やアメリカザリガニの生命力

文献調査や農林水産省の実証調査の結果、その生態特性から、アメリカザリガニの完全な根絶は非常に難しいことがうかがえます。特にため池は、年間を通じて水を利用する場合、池を干し上げてアメリカザリガニを捕り尽くすということが難しく、一定数の個体が駆除されずに残ってしまうことがあります。また、池を干すことができたとしても、アメリカザリガニは多少の湿り気さえあれば、泥の中や巣穴に潜むことで、ある程度の期間は乾燥にも耐えると言われており、根絶が難しい要因の一つです。

(2) アメリカザリガニの生息域の拡大

アメリカザリガニは、日本各地に広く生息しています。ため池や水田・用排水路等で駆除活動に取り組んだとしても、周辺の生息場所から再度侵入することで、駆除が思うように進まないことも想定されます。

駆除計画の作成（第5章（p122）で詳述）に当たっては、駆除対象とする場所だけでなく、その周辺エリアも含めて、アメリカザリガニが生息していそうな環境（2.1.3項（2）アメリカザリガニの生態を参照）を事前に調べておくことが重要です。特にため池等がアメリカザリガニの生息場所となっており、周辺に対する供給源となっていることが考えられる場合は、優先的に駆除を行う必要があります。

(3) 農村地域の過疎化・高齢化

アメリカザリガニを定期的に駆除し、生息密度を低減させることができれば、ため池に豊かな生態系が戻ってくることが期待されます。しかし、アメリカザリガニの生息密度を低く維持するためには、駆除を継続する必要があります。

近年、農村地域では、過疎化や高齢化による離農が進み、環境保全活動を含めた様々なコミュニティ活動の継続も危ぶまれるような状況となりつつあります。駆除活動を行う人員の確保や体制整備（第6章（p145）で解説）を構築しておく必要があります。